

日本中性子科学会 第 18 回年会 印象記

石垣 徹
Ishigaki Toru

日本中性子科学会第 18 回年会を平成 30 年 12 月 4～5 日に茨城大学フロンティア応用原子科学研究センターが幹事校となり、茨城県立県民文化センター（水戸市）において開催しました。

茨城大学による年会の開催は 2009 年にいばらき量子ビーム研究センターで開催された第 9 回年会以来であり、水戸・東海地区での開催も 2009 年以來となりました。中性子科学会員の多くが利用する中性子源のうち、研究用原子炉である JAEA 3 号炉は稼働再開も視野に入っておりますが、引き続き停止したままの状況ですが、J-PARC MLF 中性子源はこの 1 年間ほぼ安定して運転を続けることができたため、昨年度に引き続き、多くの測定結果が発表される学会になりました。

初日午前は、筆者である実行委員長の石垣及び三村信男茨城大学学長による開会の挨拶に続き、来賓の文科省量子研究推進室長の奥 篤史様のご挨拶をいただきました。その後、「中性子科学の将来にむけて」と題したオープニングセッションが行われました。今年度、中性子コミュニティの将来ビジョンを検討するためのロードマップ検討特別委員会から提言がなされましたが、その提言を特別委員会の委員長の藤田全基氏（東北大学）が報告し（写真 1）、それに対する学会の対応状況の報告が鬼柳会長からなされ、更に、各施設の現状と将来展望に関する報告がなされました。総合質疑では盛んな討論が繰り上げられました。

本年会では、パラレルセッションを 3 つのパートに分け、4 つの会場を利用して実施いたしました。1 日目午前中は、磁性・強相関、基礎物理・イメー



写真 1 オープニングセッションにおける藤田氏からの提言の説明

ジング、生命科学の 3 セッションと産業利用 / 産学連携セッションが行われました。産業利用 / 産学連携セッションは、例年実施している産業利用セッションを踏まえて、茨城県 BL をベースとする産業利用研究、その活動を支える茨城大学フロンティア応用原子科学研究センター、更に量子線科学専攻を含めた大学発の動きなどを話題とするセッションといたしました。産業界からは、平野辰巳氏（(株)日立製作所）がエネルギー材料分野に関して、重里元一氏（新日鐵住金(株)）が社会インフラ分野に関する、iMATERIA への期待に関して講演いただきました。

昼休みをはさんで 1 日目のポスターセッションが開かれ、学生ポスター発表の審査も同時に行いました。1 日目午後のパラレルセッションは 4 会場を利用して、材料・鉄鋼、中性子源・装置開発、構造物



写真2 学会賞受賞者の方々と鬼柳会長（右から鬼柳会長、仁井田氏、小貫氏、川崎氏）

性、化学・液体・ソフトマターの4テーマで実施し、その後に、特別講演として高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所 所長の小杉信博様に「放射光科学の動向から見る中性子科学への期待」というタイトルでご講演いただきました。その後学会総会及び学会各賞の授賞式が行われ、賞状と記念メダルが贈呈されました（写真2）。

夜に水戸市内のホテル・ザ・ウエストヒルズにて懇親会が、約110名の参加者のもとに盛大に開催されました。この懇親会では、学会発表者だけでなく、ブース展示の企業の方にも出席していただき、旧交を温めるだけでなく、情報交換等の盛り上がりも見られました。ポスター賞受賞者の学生4名は懇親会に招待され、年会実行委員長の筆者が賞状を授与しました（写真3）。なお、例年恒例の巻物の引き継ぎは、来年度はAOCNS開催のため、年会が実施されない予定となっているため、一度、鬼柳学会長へとお返しいたしております。

2日目午前中は、プレジデントチョイス賞の授賞式と各学会賞の受賞記念講演として（一財）高度情報科学技術研究機構の仁井田浩二氏の功績賞の受賞講演、茨城大の小貫祐介氏及びJ-PARCセンターの川崎卓郎氏の奨励賞受賞講演が開かれました。仁井田氏は、中性子装置の遮蔽の計算に用いられるPHITSコードの開発と中性子遮蔽の高度化に関する講演で、J-PARC MLFの装置の遮蔽設計は氏の貢献が無くては成し遂げられなかったものと思います。2日目のポスターセッションを挟んで午後には、3会場でパラレルセッション（中性子源・装置開発、



写真3 ポスター賞受賞者と筆者（実行委員長）

構造物性、化学・液体・ソフトマター）が実施され、2日間にわたる年会が終了いたしました。

今回の年会は会場の確保の都合で、週の真ん中での開催であり、かつJ-PARC中性子源のマシントイム中ではありましたが、最終の参加登録者は40名の学生を含み、226名でした。口頭発表45件（一般講演30件、特別講演1件、オープニングセッション6件、産業利用／産学連携5件、受賞講演3件）、ポスター発表116件で合計161件、ほぼ例年通りの発表件数となりました。また、18企業・団体から展示ブースの出展をいただきました。

12月8日には付帯事業として9年目になる市民公開講座「役に立つ?! 中性子ビーム～暮らし、産業、医療そして宇宙～」をいばらき量子ビームセンター（茨城大学東海キャンパス）に会場を移して開催いたしました。鈴木國弘氏（（国研）量子科学研究開発機構）、山本哲哉氏（横浜市立大学）、斎藤直人氏（J-PARCセンター）にご講演をいただきまして、こちらも多くの参加者で盛況となりました。

最後に年会開催にご貢献いただきました、共催、共催参加いただいた各団体及び公告、企業展示、寄付などご支援いただきました企業各位に感謝すると共に、実行委員、プログラム委員、茨城大学フロンティア応用原子科学研究センター事務室の皆様、及びアルバイト学生の多大な協力にもお礼を申し上げます。

（茨城大学 フロンティア応用原子科学研究センター）